

学校名：中央区立日本橋中学校 所在地：中央区東日本橋1丁目10番1号
校長名：平野 雅仁 生徒数 388名 学級数 11学級 教員数20名 職員数24名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 「確かな学力の定着と向上」

評価項目 1 生徒の学習への主体的な取組 個々の学力の向上

評価指標① 生徒は主体的に学び、「わかった」「できた」の実感をもっていますか。

→ 肯定的な回答 生徒 91.8% 保護者 69.9% 教員 100%

評価項目 2 主体的に学ぶことができる環境の提供

(授業規律の確保、授業の質の向上、個に応じた指導)

評価指標① 授業規律が徹底されており生徒は落ち着いて授業に取り組んでいますか。

→ 肯定的な回答 生徒 87.9% 保護者 82.6% 教員 100%

評価指標② 学習内容がわかりやすく工夫された授業をしていますか。

→ 肯定的な回答 生徒 91.8% 保護者 73.1% 教員 100%

評価指標③ 少人数指導を展開、個に応じたタブレット端末の活用を推進し、基礎基本の定着に努めていますか。

→ 肯定的な回答 生徒 90.3% 保護者 76% 教員 100%

学習の中で、「わかった」「できた」という実感を約90%以上の生徒がもつことができています。しかし、この項目について、保護者の方の肯定的な評価は、69.9%となりました。昨年度の質問項目を整理し、答えやすくするために質問をシンプルにした関係で、比較するための同じ質問項目ではありませんが、昨年度の同じような質問：*1「学校は学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。」と比較し、約5%保護者の方の肯定的な意見が減少しています。（*1の質問項目の昨年度の肯定的な回答 保護者 75.2%）また、評価項目2の②の質問項目は、昨年度より8.4%上昇が見られるものの、他の質問と比較しても肯定的な回答が低い傾向にあります。来年度も引き続き、授業の中で基礎基本や要点を押える取組を強化し、一人一人の学力の定着に確実につなげていきたいと思ひます。授業の中でしっかりとねらいを明確にし、可能な限り習熟度に合わせた取組を提示し取り組ませる方法を、校内研修を通して充実させていきたいと思ひます。また、今年度はICTの習熟度に合わせた題材を提供する「ドリルパーク」の活用率が、教科により偏りがあつたため、学校全体としてICTの活用を推進し、これまで以上に個別最適な学習を目指していきます。

重点目標2 「豊かな人間性の育成」

評価項目1 共感的な人間関係を築き、多様な価値を認め、受容する心を育成する

評価指標① 「生徒は多様な意見を受け止め、共感的な人間関係を築き、学校生活の様々な活動を展開していますか。

[主な評価対象：道徳 総合的な学習の時間 特別活動 学校行事 生徒会や部活動等の諸活動等]

→ 肯定的な回答 生徒 93% 保護者 89.8% 教員 100%

評価項目2 集団へ貢献する姿勢を養い、ボランティア精神を育成する

評価指標① 生徒は集団をより良くしようと学校の諸活動に貢献していますか。

〔主な評価対象：学校行事 生徒会や部活動等の諸活動等〕

→ 肯定的な回答 生徒 93% 保護者 82.6% 教員 100%

評価指標② 生徒は地域の行事やボランティア活動などに進んで参加していますか。

〔主な評価対象：ボランティア活動 Sweeping キャンペーン 大江戸まつり クリーン活動 地域貢献型部活動による地域イベント等での演奏や演技等〕

→ 肯定的な回答 生徒 80% 保護者 73.1% 教員 100%

子供たちは集団の中で、前向きに学校生活の様々な活動に取り組んでいる様子があります。本校の生徒指導は、「自己指導能力を育成する」という目標の下、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安心・安全な風土の醸成」4つの視点を大事にしています。その中で、評価項目1①の質問項目「生徒は多様な意見を受け止め、共感的な人間関係を築き、学校生活の様々な活動を展開してる」という点で保護者・生徒共に肯定的な回答がほぼ90%を超えていることは、「共感的な人間関係の育成」「自己存在感の感受」「安心・安全な風土の醸成」が進んでいる成果と感じます。また、2の項目に関しては、生徒会中心に取り組みやすいボランティア活動を精選検討し、昨年度より保護者の方の肯定的な意見が15%ほど向上しました。これまで以上に全校生徒が主体的に、自分以外の他と共に協働し、自らの心を働かせ、行動する姿を目指していきます。

重点目標3 「心身の健康の増進」

評価項目1 運動や健康への興味・関心を高めるための機会の提供や環境整備

評価指標① 「学校は体育的活動を通して運動への興味・関心を高めていますか。」

〔主な評価対象：保健体育 学習発表会（運動の部） 体力測定 連合陸上等〕

→ 肯定的な回答 生徒 93% 保護者 87.2% 教員 94.7%

評価指標② 「学校は給食・保健活動の啓発を通して健康への興味・関心を高めていますか。」

〔主な評価対象：各種検診 給食だより 保健だより 相談室だより等〕

→ 肯定的な回答 生徒 89.4% 保護者 89.5% 教員 94.7%

評価項目2 キャリア教育の充実 自らの生き方や将来を考える機会を提供する

評価指標① 学校は自らの生き方や将来を考える機会を提供していますか。

〔主な評価対象：職場体験学習 進路説明会 未来につながる生き方講演会 デジタルシブニシブ教育等〕

→ 肯定的な回答 生徒 86.9% 保護者 93% 教員 100%

体育的行事を軸に、生徒の運動への興味関心を高めてまいりましたが、保護者の肯定的な回答が85%、生徒で90%を超えており、有意義な体育的行事の展開の下、教育的効果が表れているように感じます。近年の温暖化の加速により、運動会や夏季における屋外での水泳教室等の体育的活動を、生徒の体力を加味しながらの、時代に合わせた体育的行事の展開が求められています。引き続き、生徒たちが有意義に運動への興味・関心が高められるよう、最善を尽くしてまいります。また、給食・保健活動においても、学校における取り組みをきちんと発

信しながら、健康への興味・関心も高められるよう務めていきたいと思います。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者の評価で肯定的評価の割合が 80%を超えた項目 (20 項目中 9 項目)

- ④ 学校は学習や部活動、行事において生徒の努力を認めたり励ましたりして、
温かく接している。 (84.9% 昨年度比 -1.1%)
- ⑤ 生徒は明るく生き生きと学校生活を送っている。 (92.1% 昨年度比 +7.1%)
- ⑥ 学校は生徒の健康・体力の増進に努めている。 (81.7% 昨年度比 +5.2%)
- ⑦ 生徒は集団生活のルールなど規範意識が高く、思いやりの心が育っている。
(85.6% 昨年度比 +2.7%)
- ⑨ 学校は教育活動において人権を尊重する姿勢で生徒の指導にあたっている。
(81.3% 昨年度比 +2.3%)
- ⑪ 学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している。
(82% 昨年度比 -3.6%)
- ⑫ 学校は地域や家庭との連携や協力体制を十分にとり、地域の学校として機能している。
(81.6% 昨年度比 +2.3%)
- ⑬ 学校は生徒の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。 (87.2% 昨年度比 +4%)
- ⑭ 学校は行事などを通して生徒の学習の様子や生活がわかるようにしている。
(90.5% 昨年度比 +1.4%)
- ⑮ 学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすく内容も適切である。
(88.5% 昨年度比 +1%)
- ⑲ 学校は、保護者が教育活動（面談、行事）に参加しやすいように工夫している。
(84.6% 昨年度比 ±0%)
- ⑳ 教職員の保護者に対する言葉遣いや、対応は親切丁寧である。
(95.1% 昨年度比 +0.3%)

保護者の評価で肯定的評価の割合が 80%を満たなかった項目 (20 項目中 11 項目)

- ① 学校は学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。
(74.7% 昨年度比 +10%)
- ② 学校は個に応じた指導を行い、生徒に基礎学力が身に付くように教えている。
(62.6% 昨年度比 +4.2%)
- ③ 学校は通知表等を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に評価している。
(72.4% 昨年度比 -1%)
- ⑧ 生徒は地域の行事やボランティア活動などに進んで参加している。
(64.6% 昨年度比 +6.9%)
- ⑩ 学校は生徒の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり
指導したりしている。 (68.5% 昨年度比 -1.4%)
- ⑯ 学校はタブレット端末を十分活用している。 (74.5% 昨年度比 +2.1%)
- ⑰ 学校は図書室や蔵書の充実にも努めている。 (59.4% 昨年度比 -0.1%)
- ⑱ 保護者は学校の教育活動に積極的に関わっている。 (65.6% 昨年度比 -0.5%)

3 今後の改善方策

(1) 基礎・基本の学力の定着

各教科において、わかりやすく工夫された授業を展開できるよう、校内研修を通し、授業改善に努めていきます。わかりやすい授業の中で、子どもたちが授業の中で「わかった」「できた」の喜びを感じつつ、その授業のねらいや要点をきちんと押え、基礎・基本の学力の定着が進む授業展開を推進していきたいと考えています。また、可能な限り授業の中で、到達度に合わせた課題の提示することや、ICTを活用した個別最適な学びを展開し、さらなる確実な学力の向上に努めていきたいと思っています。

(2) 「自己指導能力」を高め、「生きる力」を育む生徒指導

学校行事、部活動、生徒会活動において、学校生活の様々な場面で生徒が生き活きと活動できるよう、私たち教員が生徒一人一人の努力を認め、励まし、温かく接していくことを目指し、生徒の「意欲」や「自己肯定感」をより高めていきたいと考えています。その中で、生徒自らが考え、自分を調整する「自己指導能力」を高められるよう、様々な場面で私たち教員が子ども達に組織的に働きかけをし、子ども達にこれからの時代を見据えた「生きる力」を育んでいきたいと思っています。

(3) キャリア教育の充実

これからの持続可能な社会の未来の担い手として、自らの充実感を築きながら、社会に貢献できる人材へ成長することを目指し、中学校3年間を見通したキャリア教育の中で、自己理解を深め、自らの生き方を見つめ、進路決定することができるようキャリア教育及びデジタルシチズンシップ教育の充実を推進してまいります。

(4) わかりやすい情報発信

保護者や地域の方にわかりやすく日々の教育活動の情報を発信し、学校の取組をより理解していただけるよう努めてまいります。